

高崎経済大学経済学会

2011 年度（第 1 回）学生懸賞論文

総評

高崎経済大学経済学会では、学生の皆さんによる研究活動を奨励することを目的として、2011 年度より学生懸賞論文を設けました。初めての試みにもかかわらず、多くの応募がありました。厳正なる審査の結果、今回は、金賞なし、銀賞 1 組、佳作 4 名としました。

最も評価が高かったのは、高橋利樹・下重恭平の両氏による「成長基盤強化によるデフレからの脱却：地域金融機関からみた金融政策」です。本論文は、リーマン・ショック後の 2009 年において、信用金庫のリスク回避的な経営方針が地域経済に与えた影響を実証することで、日銀による金融政策の効果を検証することを目的としています。その結果として、2009 年度における信用金庫の貸し渋りの傾向が見事に論証されています。はっきりとした問題意識を元に課題が明確化され、先行研究に対する本稿の位置づけも明瞭です。先行研究の分析手法を、新しいデータで再分析しており、学生の論文にしては手堅くまとめられています。欲を言えば、金融政策とは異なる施策の効果や、地域金融機関が地域経済活性化に消極的な傾向を持たざるを得なかった理由などについての考察を展開できれば、より深く論考を進められるでしょう。今後に期待します。

佳作を含め応募作全般に言えることは、先行研究の十分な収集と整理が不足しているということです。そこが不十分だと「ネタ本」への依存が高まってしまいます。もう一つは、論文の体をなすための条件が不足しているということです。論文の書き方のマニュアル本が図書館に多数所蔵されています。その種の本を 5 冊以上は読んで、また先行研究の論文を読んで、論文の「型」を学んで下さい。そしてその型に当てはめながら論文を書きましょう。

次回はさらに多くの応募を期待しています。

審査委員一同